

高小コミスクだより

第4回学校運営協議会が開かれました

今年度、最後の学校運営協議会が開かれました。学校評価についての話や、今年度の反省及び来年度に向けて、意見交換がされました。主なものを紹介します。

- 子どもの自己肯定感を高めるには、豊かな体験に触れることで、まず、見ることから始まり、経験してみることである。また、家庭も学校も子どもを認めることが大切。
- ほとんどの子が、地域の方に出会ったら挨拶をしている。車での登校は危ないので、歩かせるようにしたらよい。
- まちかど交流館にも児童の作品が展示されている。子どもたちの活動を地域に発信できてよかった。
- 外部から体育指導員の指導を仰ぎ、体を作ることを学ぶのは価値がある。体幹トレーニングや足育などは、来年度も続けていきたい。また、外部から人を招くだけでなく、外部へも出かけて、いろいろな活動に取り組んでいけたらよい。
- 郷土を愛する心を育てる一つとして、方言を取り入れて、年配の方と関わりを持っていくのもよい。
- コミスク花壇は、草むしりが課題であったので、来年度工夫をしていく。

コミュニティ・スクール シンポジウム

先日、2月11日に、今年度からスタートしたコミュニティ・スクールのシンポジウムが、盛況に開催されました。かほく市内外から200名を超える参加者が集いました。

最初に、アトラクションとして、高松小学校の三郎左衛門一座による児童劇「知恵ある勇者 櫻井三郎左衛門の戦い」の上演がありました。その後、基調講演として「コミュニティ・スクールの魅力」と題して竹原和泉氏（NPO 法人まちと学校のみらい代表理事）のお話がありました。

次に、「かほく市コミュニティ・スクールがめざすもの」をテーマに、パネルディスカッションが行なわれました。高松中学校学校運営協議会委員の細川律子さんは、本の読み聞かせの活動について、谷内正樹宇ノ気中学校長は、学校の思いや挨拶宣言などの活動について、宇ノ気小学校学校運営協議会委員の細井将守さんは、見守り隊や履き物そろえについて、外日角小学校学校運営協議会委員の金子葉さんは、アサギマダラのチョウについてのお話でした。これからも、みんなが元気になるような取組ができればよいですね。



内高松子供会が「気象庁長官賞」受賞

子ども会が頑張っていて活動しています。「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」で、内高松子ども会が、「気象庁長官賞」に入賞しました。2871作品の応募の中、上位9作品の中に入り、全国表彰式が東京都で行なわれました。内高松子ども会の皆さん、おめでとうございます。